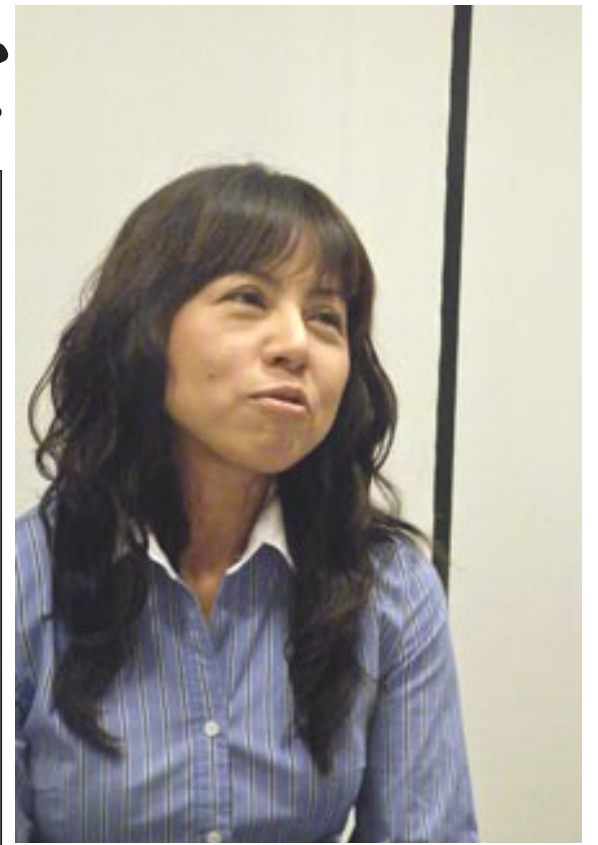


未来を担う子どもたちに素晴らしい芸術を



「自分から積極的に未知の分野に飛び込んでいくことが毎日を楽しむコツです。新たな発見と程よい刺激があり生活が充実しています。」と語る尾谷さん

みの〜れ芸術展実行委員会委員長

尾谷 令子さん

みの〜れと共に生活するスタイル
Minole Life
のすすめ
No.26

人の温かさに 感謝の毎日

楽しい夏がやってきた。こんがり日焼けした尾谷さんの趣味はドライブ。黄色のオープンカーが尾谷さんの愛車だ。鹿児島県出身、東京を経由してご主人の仕事の都合で玉里地区に越してきた。地域の人たちの優しさに触れ、毎日を楽しく生活している。第6回みの〜れ芸術展の実行委員会委員長を務め、夏が似合うひまわりのような尾谷令子さん取材する。

今年で6回目を迎えるみの〜れ芸術展。実行委員は30名で、開催に向け何度も会議を重ね企画を組み立てる。その委員長を務めるのが尾谷さん。以前勤めていたところで知り合った方の薦めでみの〜れに通うようになり、「何か、お手伝い出来れば・・・」と軽い気持ちで実行委員になったという。委員長を務めて実感していることは、「毎回誰かに支えられ、誰かに頼りながら進めている。一人では出来ないという事を強く感じ、感謝の気持ちでいっぱいです」と話す。

で、すごくありがたい。その姿を見ていると自分自身の勉強にもつながる。怖いもの知らずの自分が一番怖いです(笑)」と話していた。

今年第6回芸術展の企画運営だけでなく、今後の長期計画も立てる。まさに充実した大忙しの1年になりそうだ。

「茨城に越してきて本当に良かった」と話す尾谷さんは、現在の住まいに越してきて16年になる。「ここに越してきてから、自分から外に出るようになり世界も広がった。」という。東京にいたときは「こうなりたい」「ああなりたい」と自分のハードルを高くして、そこに届かないとイライラしたり、落ち込んだりもしたが、今はあまり欲張らず、素直に生きていけたらと思ったという。

「3年後自分がどうなるか?」と毎日意識して過ごす。常に今日は何が出来るか?明日は何が出来るか?と意識して、一日一日を精一杯、大切に送っていると話す。

尾谷さんのモットーは、「出来ないと思うことは無理せず流れに身を任せたり、周りの人に頼ったりすること。」とにかく楽しく仕事が出来て、自分が柔らかに生きていけば周りに受け入れてもらえるはずと話す。

今年のみこの〜れ芸術展は、8月22日から30日までの9日間にわたり開催され、明石春浦氏(故・書家)と永作義弘氏(日本画家)の作品が紹介される。また開催に合わせて体験教室も開かれる。子どもたちにとっては夏休みの宿題を1つクリアするよい企画となりそうだ。

「小さい頃に先入観なしで芸術文化のシャワーを浴びることってすごく大切なことだと思うんですよね。」と尾谷さん。沢山の方々に素晴らしい作品を見てもらいたいと第6回みの〜れ芸術展の準備に余念がない。

(藤田佐知子)

尾谷さんは、会議の進行もスムーズでとても上手だという。「実行委員長という仕事もよく分からず、お引き受けしたことがかえってよかったのでは?」と尾谷さん。

また「先輩方が自らの意見や意思で動いてくれているの